

夏休みだ！恐竜博物館へ行こう。

御船町で人気がある観光施設は、さてどこでしょう？ズバリ、「恐竜博物館」です。特に夏休みは、楽しいイベントが目白押しで連日多くの人々が訪れます。そこで今回、恐竜博物館で開催されたイベントや参加者の声をお届けします。

興奮と感動の天体観測

太陽が月に覆われる「皆既日食」が46年ぶりに日本各地で観測された7月22日、町でも「恐竜博物館日食観測会」が同館前で開催され、子どもを中心に集まった約120人が天体観測を楽しみました。

午前10時ごろから徐々に太陽が月に隠れて辺りが暗くなりはじめると、専用のメガネや望遠鏡を使って太陽を覗き込み観察する参加者たち。午前10時50分ごろには、太陽の約90%が月に隠れると世紀の天体ショーに会場は歓声と感動に包まれました。

参加者の紫垣正之さん（木倉）は、「自分の眼で実際に日食を見られて感無量。46年前は、硝子にロウソクの煤を付けた物を使い、家族と二緒に日食を観た記憶があります」と貴重な体験談を話されていました。



専用レンズや望遠鏡を使って日食を観察する参加者たち(写真右)。日食が始まり、太陽上部が月に隠れはじめる=10時13分ごろ(写真左上)。部分日食で、太陽の約90%を月が覆っている=10時50分ごろ(写真右下)(日食写真/恐竜博物館提供)

ティラノサウルス、インタビュー

皆既日食に参加の

夏休み期間中にボクに会いに来てくれたお友達にいろんな話を聞いてみたガオーツ。

滝尾小5年 緒方 斗志記 くん(滝尾) 昼なのに夜の感覚

今日は、友達と4人で日食を観察にきました。太陽が全部隠れない部分日食でしたが、すごく興奮しました。日食が進むに連れて、昼間なのに空が暗くなって夜みたいになったことや、気温は変わらないと思っていましたが、風が(吹くと)涼しい感じがしました。26年後の日食は、太陽が全部隠れるような地域で、また見たいと思います。



ミフネリユウ発見から30周年の記念イベント

御船町が、恐竜の郷として、一躍脚光を浴びるきっかけとなった「ミフネリユウ」の化石大発見から、今夏でちょうど30年目。この節目を記念して8月1日から7日までの期間、「ミフネリユウ発見ウィーク」と銘打ち、期間限定で小学生の入館を無料としたサービスや、多彩なイベントが開催されました。

月1日と2日に開校。小学生51人が参加して、化石や遺物の採集、火山灰観察、石器製作などを体験しました。また、ミフネリユウが発見された滝尾地区上梅木で産地見学会が8月3日と6日に、恐竜の消しゴム作り体験が博物館で8月4日と7日に、それぞれ開催。連日多くの恐竜ファンが県内外から訪れて、30周年の節目を二緒に祝っていました。

恐竜博物館から重大発表

ミフネリユウ発見30周年を記念して、「科博ゴラボ：ミュージアムアロサウルスがやってきた」―日本と世界の肉食恐竜たち―展」が8月25日④～12月6日⑤までの期間、恐竜博物館で開催決定。中生代ジュラ紀後期(1億5500万年～1億4500万年前)に生息していた大型肉食の恐竜「アロサウルス」の全身骨格標本(高さ約3.5m、長さ約7m)国立科学博物館所蔵)が恐竜博物館常設展示室に期間限定で初登場します。

夏休み後半は、ご家族一緒に「アロサウルス」をぜひ一度ご覧ください。

ミュージアムキャンプに参加の

高木小6年 松崎 巧真 くん(高木)

恐竜たちと一緒に就寝

徳永宗馬くんに誘われて、初めてキャンプに参加しました。化石採集で、植物や二枚貝の化石を見つけました。一番楽しかったことは、博物館の中で、恐竜の模型や化石の展示物の中で寝られたことや、新しい友達が出来て、話が弾んで少し夜更かししたこと。残りの夏休みを利用して、火山灰観察で持ち帰った地層の成分を学校で調べてみたいのです。



御船小6年 徳永 宗馬 くん(滝川)

黒曜石で石器作りに挑戦

キャンプは3回目の参加です。実際に、化石を採集出来るのが楽しみです。一番楽しかったことは、石器製作。昔の人が狩りで使っていた矢じりを真似て、石で黒曜石を砕いて、鹿の角で矢の形に仕上げている作業が面白かったです。参加してよかったことは、友達が多く出来たことや、仲間意識が芽生えたことです。夏休みを利用して、友達と物作りや植物の研究をしたいです。



ミュージアムキャンプで化石採集に熱中する、坂本勇太くん(陣=右)、池下涼介くん(豊秋=左)、高村朋希くん(豊秋=中)の小坂小6年の仲良しトリオ(写真上)。8月5日の入館者を対象とした「おたのしみ抽選会」で、恐竜博物館を埋めつくした恐竜好きの子どもたち。アロサウルスの復元模型や、アンモナイトの化石などの豪華景品が贈られた(写真下)。